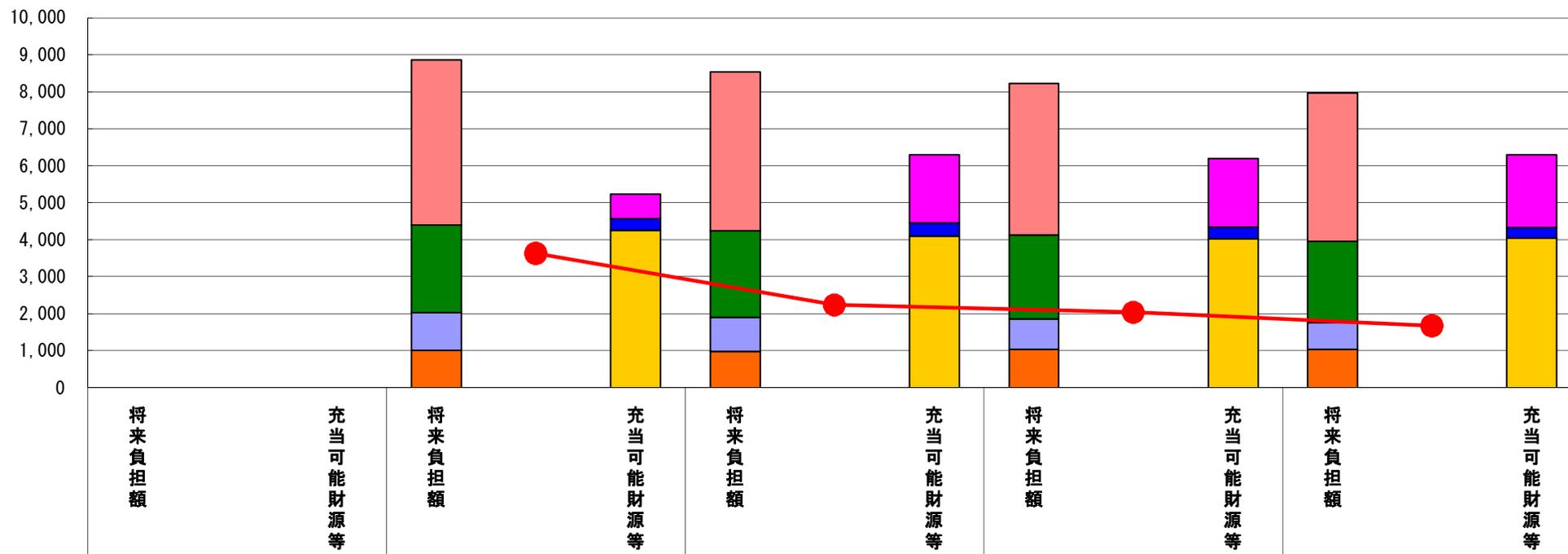


(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮城県大郷町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	-	4,468	4,283	4,101	4,022	
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	-	-	-	-	
	公営企業債等繰入見込額	-	2,366	2,348	2,272	2,194	
	組合等負担等見込額	-	1,023	920	819	718	
	退職手当負担見込額	-	1,007	985	1,045	1,047	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-	-	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-	
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	-	662	1,844	1,851	1,980	
	充当可能特定歳入	-	307	347	321	276	
	基準財政需要額算入見込額	-	4,265	4,112	4,027	4,052	
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	3,631	2,234	2,037	1,671	

分析欄

将来負担比率については、平成19年度との比較で94.3ポイントと大幅に減少してきている。

これは、これまで実践してきた、公債費等義務的経費の削減等を含む行財政改革の成果であり、公営企業債等繰入見込額や組合等負担等見込額の減少、財政調整基金や減債基金の積み立てによる充当可能基金の増額等による将来負担額の減少とともに、幅は小さいものの標準財政規模が増となっていることが主な要因である。

しかしながら、今後は統合小学校の建設費等に伴う公債費の増等を要因とする比率の上昇が考えられるため、より一層の財政の健全化に努める必要がある。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。